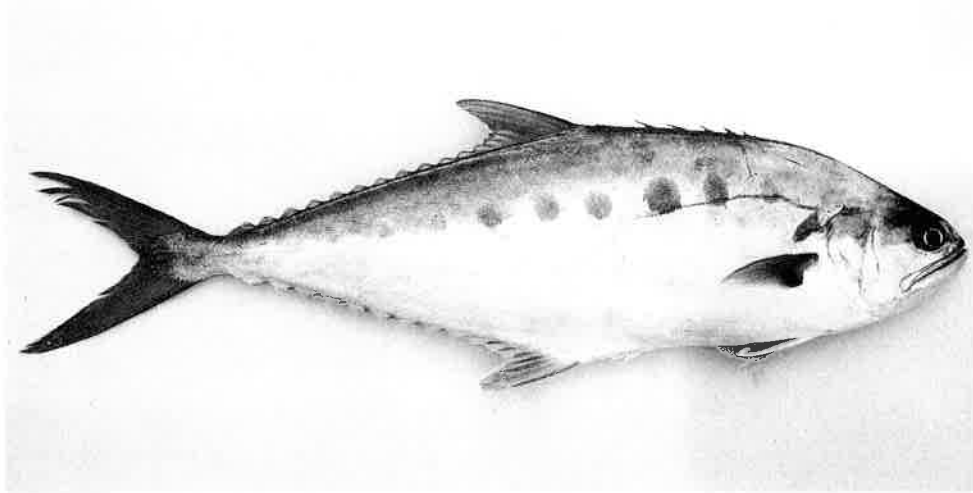


トピックス

熱帯の魚 オオクチイケカツオ・富山湾で捕獲!／



富山湾には黒潮から分かれた対馬暖流が流れ込んでおり、毎年11月～1月頃、ハリセンボン、マンボウ、カゴキダイ、ハナオコゼなどといった暖流系の魚が捕獲されることがよくあります。一般的に、対馬暖流に乗って富山湾にきたところ、水温が低くて弱ってしまい、冬の強い北風によって沿岸近くに押し流されて定置網などにかかると言われていました。

平成8年12月10日、山田信利さん（滑川市）が全長65cmもある銀白色の珍しい魚を持ち込んできました。山田さんは富山市にあるスーパーの鮮魚部に勤務しているので、仕入れた魚の中に変わった魚がいると水族館に持ってきてくれる方です。富山市四方の魚市場経由らしいということで、四方漁業協同組合の浦上組合長に問い合わせると、10日朝、四方沖に設置してある「大垣定置網」で捕れたもので、今まで見たこともない魚だという話でした。

水族館に問い合わせがあると、いつもは図鑑をお見せして説明できるのですが、今回は見当たらないのです。南方系の魚で南日本まで分布しているアジ科のイケカツオかミナマイケカツオの仲間だということは見当がつくのですが、「これだ」という魚はでていないのです。そこでこの仲間詳しい千葉県立中央博物館の望月賢二先生に連絡し、写真を送ったり関係資料を戴いたりした結果、なんと主に熱帯海域に生息するオオクチイケカツオだということが判明しました。オオクチイケカツオは日本では大変珍しい魚で、沖縄で?付きの記録があるのみで、標本に基づく実質的な日本初記録と思われるのです。少なくとも、分布の北限記録、あるいは日本海での初記録は間違いなく、今回のオオクチイケカツオの捕獲は学術的にも貴重な記録となりました。

オオクチイケカツオの分布は熱帯域が中心です（西太平洋からインド洋に分布。東南アジアからオーストラリア北部に多い）。今回のオオクチイケカツオは、対馬暖流に乗って富山湾に紛れ込んだと考えられますが、沖縄や九州などの南日本を通り越して富山湾で捕獲されたことはとても不思議なことです。今後、他の海域でも捕獲される可能性がありますので、情報があればぜひ連絡をお願いいたします。

— 稲村 修 —